

KING98 参加報告～連載第1回～

経済学部経済学科3年 田辺健太

私は98年8月26日から8月31日までKING98というビジネスコンテストに参加しました。私は、まさにドラマのような激動の6日間をすごしました。今回の報告はそこでの体験とその後のJTでのプレゼンの体験を連載形式で数回に渡って執筆していこうと思います。

第1回目は、KING98というイベントを知らない方のために、KINGとは何か。また私が参加した経緯から課題論文提出までを書こうと思います。

KINGとは(以下募集パンフレットより抜粋 詳細は <http://waav.cup.com/king>)

KINGは学生のためのビジネスコンテストです。全国の学生が6日間の日程でビジネスの能力を競います。

参加者はケースと呼ばれるビジネスの実例を課題として与えられます。

アントレプレナーシップ(企業家精神)、コミュニケーション、マネジメントの3つの能力を測ります。

プログラムには、スキルアップのためのセミナーや冊子の配布が含まれます。

参加者は、6人1組のチームに分けられ、チームごとに企業戦略の策定とプレゼンテーションを行います。

各チームは最終日に企業人、学識者によって構成される審査員によって評価・順位付けされます。

インターン(実務体験)や企業トップとの懇談会などの特典や賞品を用意しています。

コンテストの後も、各種イベントやKING参加者の情報交換の場を提供します。

後援

通産省、日本貿易振興会

協賛・協力企業

アトラス、アリコジャパン、ウィリアム・エム・マーサー、キャノン、協和醗酵、グロービス、縄文アソシエイツ、日商岩井、日本交通公社(JTB)、日本たばこ産業(JT)、日本ネットワーク研究所、日本ヒューレット・パッカー、日本マクドナルド、日本NCR、ネクステージ・システム、プライス ウォーターハウズ コンサルタント、ミスミ、ユニバーサル企画、ユニバーサルホーム、横河レンタリース、理想科学工業、レクメド

日程：1998/8/26～8/31

*ゼミ合宿の翌々日からのスタート。私にとっては結構きつい日程であった。

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

* 改築されたばかりのオリセンが会場。バブル時に設計されたというだけあって、まさに豪華絢爛であった。

定員：120名(論文選考で選抜)

* 今年は定員 120 名に対して約 180 名の応募があったそうである。倍率 1.5 倍、高校入試なみですね。来年は 2 倍近くはないかと思います。

* 参加者は、北は北海道、南は九州、東はアメリカ！？ と実にバラエティ豊かで様々なバックグラウンドをお持ちの方が集まっていました。

参加費：25000 円

* 大学生にとっては結構高額な値段である。しかし、このお金で 1 週間すごせる事と、ここで行われる事、そこから得られることを考えると安い金額と言える。

* 武蔵大学の学生は参加費を大学が出してくれるそうである。KING97 に参加した学生が『KING での体験が 1 年間の大学生活よりもすばらしい体験だった』とレポートに記したのがきっかけだそうである。専修大学でもこの私のレポートをきっかけにそうになってくれれば私の生活も少しは楽になるのだが...

KING98 に参加した理由

私は、現在経済学部にも所属しているのであるが、経済学部は理系と違い、講義による授業がほとんどであり、実技と呼べるものは皆無に等しい。学校の講義は受動的で自分で頭を使って考える場というのがほとんどないのである。医者やエンジニアを養成する学部では講義と実技がカリキュラムに存在するのに、経済学部ではビジネスマン、ビジネスウーマンを養成するための実技科目が存在しないのである。

これまでは、アメリカへのキャッチアップという事でアメリカをお手本にしていけば良かったのかもしれない。問題にぶつかってもアメリカという先進国の『解答』が存在したわけだから、それに向かって突き進めばよかった。だから経済学部にも実技というものがなくても良かったのかもしれない。しかし、現在はキャッチアップの時代も終わり、お手本のない時代に日本は突入している。言い換えるなら『解答』のない時代に突入しているという事である。そういう時代の中でこれからのビジネス社会で必要とされる能力は問題解決力でないか。今まで私に限らず、日本人は受験勉強を通じて、与えられた問題に対して『正解』を出す事のみを要求されてきた。すなわち『問題に解答する事』である。しかしビジネスの社会に『正解』などは存在しない。『問題を解決する事』こそが重要であり、必要とされていることである。

『解答』と『解決』、この差は今まで受験勉強に邁進してきた我々にとってはあまりに大きい違いである。この違いにいち早く気がつき思考回路を変える事こそが大学時代に身につけておかねばならないことではないか。しかしながら今の大学の授業にはそうした場合は残念ながら存在していないように思える(少なくとも私が所属する学部には)。なぜなら大学

のテストは高校までのテストと大差なく、どれも正解が存在する問題が出題されていて、それに答えるための授業が日ごろ展開されているからである。このように考え、私は今までインターンシップに参加し、実際のビジネスの場を体験したりもした。でも、そのインターンシップで感じた事は自分の能力のなさである。インターンシップに参加したといえれば聞こえはいいが、実際は会社見学に終始していたようにも感じる。もっと自分の能力を高めなければならないと痛感した。そう思っていた矢先に私は友人を通じ一枚のパンフレットを目にする。それが『仮想ビジネス空間の演出』を提唱した**ビジネスコンテスト KING98**であった。私は『これだ』と思い参加する事を決意したのである。

課題論文提出

上記のように参加するには論文選考をパスする必要がある、私も提出期限ぎりぎりになって(いつもの事だがどうも締め切り間近にならないと私はやらないようである。悪い癖だとは思っているのだが...)必死に取り組み始めたのである。今年の課題は「コンビニのPB(プライベートブランド)アイスクリームの商品開発」であった(論文課題の詳細は下記)。私はまず家のそばのコンビニ駆け込み、つぶさにアイスクリームを観察(恐らく店員から見れば異様な客だったのだろう)。見ていてもアイデアが浮かんでこず、アイスクリームからヨーグルトまでありとあらゆるデザートを買って試食(結構、お金がかかってしまった)。それらを家に持ち帰り、すべてを試食(翌日、腹がおかしくなった事は言うまでもない)しながらアイデアを練ること数時間。ようやく考えがまとまり、課題をメールで提出。こういう時にメールのありがたさを認識させられる。もし郵便だったら締め切りに間に合わなかっただろう。メールとはずぼらな私のためにあるかのように思えてしまう瞬間であった。

とにかく、課題提出が終わりホッと一息。後は合格通知を祈りながら待つだけ、天命を尽くして人事を待つとはまさにこの事!?

KING98 裏話

今回の KING98 には、NHK BS2(経済最前線)と TBS が取材に来ていました。もちろんコンテストの様子は両局で後日放送されました。TBS の方は私が所属していたチームも特集されました(特集を組まれるほどうちのチームが取材を受けていた記憶はないが)。私は見事にぐっすり寝ているところを激写されてしまった。連日の徹夜疲れで戦略構築タイムに、うちのチームの男共は部屋で熟睡していたのである。で、戦略構築タイムに1チームだけ、戦略策定ルームにいない異変に気がついた某局ディレクターがカメラを携え部屋を襲ったという次第である。結果、私の寝顔が全国のお茶の間に中継される羽目になったのである。放送終了後、番組を見た友人から電話で冷やかされた事は言うまでもない。その放送を見て思った事だが、ひどいかわらわらしていたな。1週間、ほとんど徹夜状態だったから仕方ないのかもしれないが...

KING 9 8 論文課題

現在コンビニエンスストア(以下 CVS)では、中食形態(コンビニ弁当やサンドウィッチを買ってきたり、宅配ピザを利用すること)での購買動向が伸びており、魅力的な市場となっている。そんな中で CVS のアイスクリーム市場も今後の成長が期待されている。

大手アイスクリームメーカー「X」は、CVS チェーン「Y」本部から、お弁当やサンドウィッチを食べた後の「食後のデザート」として販売を展開するアイスクリームまたはシャーベットを、Y チェーンの PB(プライベートブランド)として開発して欲しい、との依頼を受けた。

X 社は日本で、最大手のアイスクリーム・メーカーであり、主力商品である「Z」ブランドの 500 g パックと新製品「ZZ」の 100 g バーが、Y チェーンでも販売されている。また、Y チェーンは、CVS 業界の 2 番手で日本全国に約 4 千店を展開している。

あなたは、X 社の新商品開発チームのリーダーである。アイスクリームの販売展開案を視野に入れた上で、Y チェーン PB アイスクリームのコンセプトを策定し、商品開発に取り組まなければならない。

- 1)新商品のコンセプトと仕様案(味、容器・容量、希望小売価格など)や、販売展開案、PR 展開案を 200 字以内にまとめてください。
- 2)また、その案が現実的に売上げを確保できる理由を 300 字以内で説明してください。

今回の報告は、これで終了。ここまで読んで下さった方、ありがとうございました。続きは次回以降に書きます。このペースでいくとこの連載は 10 回近くいくのではないかと内心ビクビクしていますが(そうすると連載終了は来年の夏あたりかな)、これからも読んで頂けるとうれしいです。

御意見、御感想はこちら

経済学科 3 年 田辺健太

mailto:fwhw1153@mb.infoweb.ne.jp